

---

---

## ホットニュース(平成16年度／第76号)

---

---

### ●今月の業界ホットニュース／中国便り・その5

四川省の省都成都近郊の徳陽市(成都都心から40～100km圏、人口約400万人の地級市、日本で言えば県クラスなので茨城県といった趣)を担当していて、観光政策のアドバイスを求められ、先月周辺の観光地を視察した。成都周辺には日帰り圏に峨眉山(仏教4大名山)、樂山大仏(世界最大の石仏)、都江堰(BC3世紀に着工された水利施設)、青城山(道教の前身五斗米道発祥の地)と4カ所も世界遺産がある。世界遺産は、周辺の生態系を含めた環境整備、美化も重要な要素なので、それぞれの都市は環境政策にも大変熱心である。

今、中国では「退耕還林(農地を森林に戻す)」のスローガンに見られるように、環境政策は重要な政策課題の一つである。地方の道路整備でも、必ず緑化と併せて行っていることを強調する。市街地部では植樹帯を充分にとり、郊外部では沿道緑化に力を入れている。徳陽市では、市街地部の高速道路沿道を巾50mの植樹帯にし、緑の骨格を創る計画である。

中国西部地域の一人当たりGDPはまだ1000ドルにも満たない。日本の40年前の水準である。当時の日本が、環境整備とか緑化等についてどこまで配慮していたか考えると、当時と国際情勢が違うにせよ、中国が政策目標を決めたときの推進力には圧倒される思いである。

(代表取締役 堀田 紘之)

---

---

### ●LRT(最新型路面電車)を走らせるために

---

---

私事にはなりますが、現在「NPO横浜にLRTを走らせる会」に参加し、さまざまな活動を行っています。LRTは「ライト・レール・トランジット(Light Rail Transit)」の略で、路面電車のシステム全体を近代化・ハイテク化した新しい都市交通システムです。当会は市民の手で横浜にこのLRTを走らせようとフォーラムの開催をはじめ、LRTを広く市民に知ってもらうため色々な活動を行っており、現在は路線の検討や事業費の検討等を始めているところです。

近年欧州やアメリカでは、すでに街の再生・活性化のためにLRTの導入が進められている事例がありますが、日本ではまだ構想・検討の段階です。LRTは既存の道路を利用するため事業費は中量公共輸送システムとしては比較的安く、また、バリアフリーである等様々なメリットがあることから、国交省も新線建設を支援することを決定しています。

しかし、安いといえどもお金が掛かることであり、沿道の方々へのデメリットも生じることから今後市民の方々とは話し合い、課題をひとつひとつ解決していかなければなりません。また、当然横浜市との協働を進めていく必要があり、我々は自治体ではなかなか手がつけられないことを中心に今後も活動を続けていくことになります。

詳しくは、「NPO横浜にLRTを走らせる会」のホームページをご覧ください。(URL:[www.yokohama-lrt.com](http://www.yokohama-lrt.com))

(第一計画部 大沼 安秀)

---

---

### ●社会実験のその後

---

---

最近、目に触れることの多くなった各種の社会実験。今、実験後の実現化が、成功するか頓挫するか岐路に立たされている地区がある。

実験の内容は多岐にわたるため一概にはいえないが、特にいわゆる既得

権をおかすような事項を含む場合、関係者がかけるエネルギーは極めて多  
大なものである。実験自体も大変であるが、その後の実現化に向けた調整  
に、担当者の手腕が求められる。

問題の地区では、当初懸念された市民、住民サイドの反応は極めて良好  
なものであった。「多少不便でも協力する」という意見が多かったため、  
「不便な人が出るので合意が難しい」という心配は杞憂に終わった。では、  
何が問題なのか。問題はむしろ行政内部。「社会実験」の意味が正確に理  
解されていないため、様々な局面で問題が生じたのである。別の地区では、  
せっかく社会実験をやったのに、「財政」を理由にあっさり実現化をあき  
らめてしまった。これも実験の意味を理解していなかった例のひとつであ  
る。敵は内部にあり、であった。

事例が増えたとはいえ、まだまだ「社会実験ははじめて」という担当者  
によって行われる場合が多い。何のための実験なのか、十分こころしてか  
からないと、せっかくの良い手法が生きてこない。くだんの地区の関係者  
の苦労が実るよう心から祈っている。

(第二計画部 坂井 雅子)

アルメックホットニュース(平成16年7月15日発行)

////////////////////////////////////